氏名：　塩崎　美穂　（SHIOZAKI Miho）
所属：　教育事業部 (幼・保の発達を見通したカリキュラム開発)
学位：　教育学修士／ Master of Padagogy
職名：　講師
専門分野：　教育学・保育学・保育思想史
E-mail：　smiho@baci330.to

◆研究キーワード　／　Keywords

保育思想史／子育ての公共性／公的保育制度／幼保一元化／近代家族の脱構築

◆主要業績　　総数（６）件

・共著 教育学を拓く――汐見稔幸教授とともに――，東京大学大学院教育学研究科
教育学研究室紀要　第 33 号，2007.6
・書評 橋本宏子著『戦後保育所づくり運動史』, 幼児教育史研究　第 2 号 , 2007.11
・お茶の水女子大学「幼・保・大」連携保育研究の試み（6）
「総合的保育者」の養成にむけて,『幼児の教育　第 106 巻第 6 号』フレーベル館 2007.6
・お茶の水女子大学「幼・保・大」連携保育研究の試み（7）
バオバブ保育園訪問記―いずみナーサリーの保育実践へつなぐ,
『幼児の教育　第 106 巻第 7 号』フレーベル館，2007.7
・お茶の水女子大学「幼・保・大」連携保育研究の試み（12）
「保育」政策の世界的潮流,『幼児の教育　第 106 巻第 12 号』フレーベル館，2007.12

◆研究内容　／　Research Pursuits

日本では、「福祉」と「教育」が、厚生労働省（厚生省）と文部科学省（文部省）という管轄の違いによって、保育・教育の実践や法制度、また学問領域において異なるものとして取り扱われてきた。しかし今や、実際上の幼保一体化が進み、「保育」や「教育」の境界やその意味内容については、早急に再考される必要がでてきている。大きく分けて、保育所と幼稚園という二つの保育資源をもつ日本において、これらの資源が有効に生かされることを考えながらも、今後は、既存のインフラに縛られ過ぎない「保育」や「教育」を構想していくことが必要となる。海外の保育政策動向や歴史的な保育政策を参照しながら、これからの保育制度について考察を深めていく。

◆教育内容　／　Educational Pursuits

「保育」はその営みの複雑さや重要さに比べ、たいへん低い社会的地位しか与えられてこなかったといえる。けれども、家族の危機を中心とした人間存在の不安定さが如実に現れている今のような時代にこそ、高等教育機関では「保育」の講座を保持する必要があると考えられる。保育労働市場の変容にあわせ、幼稚園教諭と保育士資格の両免取得に向かう傾向が保育者養成では顕著だが、しかし、労働市場に即応するだけでは、人間観、子ども観、保育観という本来必要な学びをせばめてしまう面があるのではないだろか。これからの保育者に本当に必要な学びが何であり、その学びに応える保育者養成カリキュラムとはどのようなものなのかを考えながら、多角的な視点をもって「保育」を外側から眺め、自らの実践やものの見方を省察する知にひらかれた学びを深めたい。

The child caring role has traditionally been given a low status in society despite its complexity and importance. We think it is important to maintain 'Childcare' courses in higher education, especially in this modern world where instability of human relationship based around family crisis is so apparent. In order to bring up carers who can look at 'childcaring' outside the box with a wider scope as well as being full of intelligence with ability to reflect their own practice and views, we are now focusing on class activity reform.

◆メッセージ

おもしろく魅力的な知は、多くの人のネットワークのなかにあります。ぜひ、知のネットワークのなかへ足を踏み入れてみてください。学びによって拓かれる視界の広がりや深まりが、これから世界に参加しながら、新しい世界を構成する際の糧になるでしょう。